

## II. ポスターセッションの部

## G-14

## 人新世において民主主義の場所はどこにあるのか？

小川 歩人（大阪大学大学院人間科学研究科  
／超域イノベーション博士課程プログラム 博士課程2年）

Anthropocene という科学者から提起されたすごくパフォーマティブな問題設定、これを、僕の専門も哲学ですが、どういう風に受け止めていくかということです。

2000年にスピヴァクという思想家が Planetary Thinking 惑星規模の思考、惑星規模の想像力ということを問題提起していました。そこでは縮減不可能な無数の差異や、一般化、一様化、画一化していくグローバリゼーションに対して、むしろそうならないような視点、例えば第三世界的な視点といったものを提起する必要といったものを述べていました。これに対して例えば Anthropocene といったものとどのように向かい合っていくのか。あるいは1988年に『3つのエコロジー』という本で、フェリックス・ガタリという人が言っています。これは単に環境を何か変えるだけではなく、主体のあり方、ライフスタイルあるいは社会関係、産業構造や政治関係、組織構造といったものをともに変容させていく必要があり、そのことをエコゾフィーと呼んでいました。要するに大気圏に対して何か薬品を散布してそれで終わりという話ではないわけです。そのプロセスの中で民主主義の再考案、再発明といったことをどうすることができるか、といったことが考えられていました。

さらに言えば、現在民主主義を考える時に、むしろ民主主義に対する憎悪といったものが蔓延している、といったことを考える必要があります。ギリシャ危機あるいは世界金融危機以降、むしろデモクラシーがポピュリズムに陥ってだめになった、あるいは市民運動が疲弊していく、そこで何も変わらない、そういった意識の中で、むしろどういう風に新たなツールを作りなおしていくのか、どういうふうに発明していくのか。それは不毛な何か選択ではなくて新たなツールといった形で練り上げられなければならない、そういうふうな問題設定があります。そして、産業あるいは国家あるいは社会、そしてあるいは大学知、専門知、あるいはローカルな知、そういったものが協働しながら新たなレベルでの民主的組織をいかに行なっていくか。僕は例えば文理融合だとか三者学連携だとかコミュニティデザイン、マネジメントみたいなものがどういうふうな効果をもってコモンを作っていくのか、そういったことを問い直していく必要があると考えています。以上です。

第9回地球研究セミナー 9th R&N Tokyo seminar.

# 人新世において民主主義の場所はどこにあるのか

小川歩人(大阪大学大学院人間科学研究科共生の人間学/地域イノベーション博士課程プログラム)

